

みまも あい ころ あか まな
見守る愛 - 転んだ赤ちゃんから学んだこと

PATHIRAJIA MUDIYANSWLAGE HARSHI

KESHICA PRASADANI PATHIRIAJA

(パティラジャ ムディヤンセラゲ ハルシ ケシカ プラサダニ)

しゅっしんち

出身地：スリランカ

みなさんは、「本当の愛」とは何だと思えますか。

すぐに手を差し伸べること。それとも、信じて待つこと。

今日は、私が日本でのアルバイト先で経験した、今でも忘れられない出来事から、「見守る愛」についてお話しします。

以前、アルバイト先で働いていたときのことで。ある日、小さな赤ちゃんを連れて日本人のお母さんが来店しました。赤ちゃんは店内をよちよち歩いていましたが、その途中で転んでしまいました。

その瞬間、私は「早く抱き上げなければ」「きっと泣いてしまう」と思いました。しかし、お母さんはすぐには近づかず、少し離れた場所から、やさしくこう声をかけました。「大丈夫。起きてごらん。」

その声はとても落ち着いていて、温かいものでした。赤ちゃんは泣かずに、自分の力で立ち上がろうとしました。何度もバランスを取りながら、ゆっくりと、でも確実に立ち上がったのです。

その姿を見たとき、私は本当に驚きました。なぜなら、私の母国スリランカでは、子どもが転ぶと、親はすぐに助けるのが普通だからです。スリランカではすぐに抱き上げることが、愛情のある行動だと考えられているのです。

しかし、日本で見たこの光景から、私は大切なことに気づきました。日本では、子どもを信じて見守ることで、自分で立ち上がる力や、失敗しても大丈夫だと思える心、そして自立心や責任感を育てているのだということです。

助けないことは、冷たいことではありません。信じて待つことも、深い愛情の形なのです。

この経験を通して、私は日本社会の強さの一つを理解したように思います。それは、人を信じ、すぐに答えを与えず、自分で考え、自分で立ち上がる力を大切にする姿勢です。

最後に、もう一度問いかけたいと思います。本当の愛とは、何でしょうか。

それは、^{ころ}転んだときに^てすぐ^さ手を^の差し伸べるだけでなく、また^た立ち^あ上がれると^{しん}信じて、
^{みまも}そっと^{ゆうき}見守る^の勇氣^なのかもしれません。

^ひあの日、^{ころ}転んでも^た立ち^あ上がった^ああの^{あか}赤ちゃんの^{すがた}姿は、^{いま}今も^{わたし}私の^{こころ}心^{なか}の中で、^{みまも}「^{あい}見守る愛」
^{たいせつ}の大切さを^{おし}教えて^くれています。

^{いじょう}以上で^{わたし}私の^おスピーチを^{せいちょう}終わります。ご清聴、ありがとうございました。